

3年 研究授業のまとめ（11月27日）

1 単元名及び単元の目標

農家の仕事（10／12時間）

- ◎ 本単元の学習を振り返り、農家の人たちの工夫とその意味や大切さ、工夫に込めた思いについて考える。

2 本研究授業の提案について

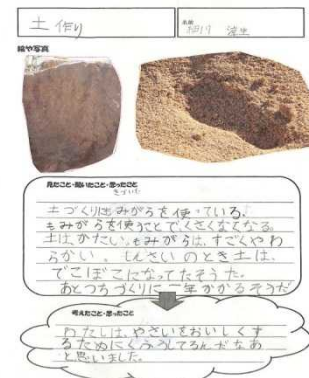
一人一人が農家の人たちの工夫や思いについて考えを持つことができるように以下の二つについて提案を行った。

- (1) 農家の工夫の意味と思いについて自分なりに考えられるように発問を精選した。まず、「庄司さんの野菜作りで伝えたことをできるだけたくさん挙げましょう。」という思考を拡散させる発問をした。児童は今までの学習を振り返って、庄司さんの野菜作りについて印象に残ったことを数多く挙げていた。その後「庄司さんの野菜作りについて一番伝えたいことは何か」という思考を収束する発問をした。一番を決める思考を通して、個々が農家の工夫の意味を再度考え、ポスターにしたい言葉を選んでいった。

しかし、それぞれの思考が「事実と工夫」に留まっていて、農家の人の思いまで及んでいない児童が多かった。どうして、「その言葉を選んだのか」問うことで、工夫に込められた思いまで考えさせる必要があった。

- (2) これまでの学習を振り返り、考えを深め合えるように意見交流の方法を工夫した。ワールドカフェという学習形態を取り入れた。グループ替えを繰り返し行い、多くの児童と意見交流をする学習形態である。多くの友達と意見交流をし、多様な考えに触れる中で、最初は何も話すことができなかった児童でも、自分の考えを持って話すことができるようになった。しかし、意見が広げることで、自分の考えを持つきっかけになることはあっても、考えが深まることが少なかった。その原因としては「書く」「話す」活動が混在していたことと、この活動に十分になれていなかったことが考えられる。

また、本時の授業から、発想を広げるのには有効であったワールドカフェを単元のどの段階で取り入れることが適切であるのか、考えていくことも課題となった。



【図1 ワークシート】

3 本研究授業の授業技術課題について

意見の交流を活発にするために補助発問をしたり、資料を活用を促したりする支援を行った。2回目の意見交流の際に、「自分が見学をして驚いたことでいいんだよ」という補助発問をした。それによって、資料にある事実だけを発言していた児童も、自分が見学をして実感したことを発言するようになった。補助発問によって、話合いの方向を軌道修正することができた。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は「仙台市の様子」「農家の仕事」の単元において、「意欲的に調べ、調べたことや考えたことを相手にも分かるように表現すること」に重点を置いて授業作りを行った。両単元ともに外部と連携し、「伝える相手」と「目的」を明確に意識させた。それによって、意欲的に調べ、調べたことを必要感をもって伝え合う姿も見られた。単元構成のゴール設定を工夫することで児童が意欲的に活動できることを確かめることができた。その一方で、その単位時間の目標に適した学習形態を考慮していくことが課題として残った。児童の意欲を生かし、思考を深める手だてを今後も学んでいきたい。